

# Advance

## #自由とルールのある中で ～理事長の講話より～

今週は、来週のスキー宿泊学習に向かう5～7年生の子どもたちに向けて、理事長から「自由とルール」についてのお話がありました。

「自由であること」と「ルールがあること」は、一見すると反対のもののようにも感じられます。しかし本来、自由とは「好き勝手に振る舞うこと」ではなく、「周りの人を大切にできるからこそ成り立つもの」なのだというお話でした。

講話の中では、ある事例をもとに、子どもたち同士で考え、意見を交わす時間もありました。

自由というものは、ルールによって守られるだけでなく、周りの人のちょっとした配慮や思いやりによって支えられている側面もある、と私は感じています。それを象徴する話として、ある本に書かれていたエピソードを思い出しました。

残念なレストランに入った。

ネット割引券をダウンロードして、オーダーのときに「これ、お願いします」と言ったら、「このメニューは当店では扱っていません」と言われこっ恥ずかしい思いをした。

ちょうど同じ頃、大阪にある面白い居酒屋の話聞いた。

その居酒屋と似たような名前の居酒屋が近所にあるらしい。

たまにお客がその店の「無料ドリンク券」を持ってくるという。

店員は最初「これはあちらのお店のものです」と断っていたが、そういうことが続いて店の大將はとんでもないことを考えた。

「〇〇屋の無料ドリンク券、うちでも使えます」と表示したのだ。

そのことで売り上げが上がるかどうかはどうでもいい。

ただ、「客にこっ恥ずかしい思いをさせてはいけない」という思いからだった。

確かに、彼女を連れて来ている男が割引券を出す段階でアウトなのに、さらに「この割引券は使えません」とか「これ、有効期限が切れてます」などと言われると、男のメンツ丸つぶれである。

間違えたお客が悪いのだが「これ、使えます」とか「有効期限切れてますけど大丈夫です」と言われたら、きっとその店のファンになるだろう。

生ビールが一杯タダで飲めたというレベルの喜びではない。その懐の深さと心の温かさに感動するのだ。

店側としてもドリンクだけ飲んで帰る客はいないので損はしない。第一、よそのサービス券を利用可にすることで、印刷コストがゼロになる。

最も大きな効果は話題性だ。

「あの店ってあんなコトやっている」、これが口コミやネットで広がる。

水谷もりひと：著 「仕事に“磨き”をかける教科書！」（ごま書房新社）

ディズニーランドには、毎日たくさんのお礼の手紙が届くそうです。その多くはアトラクションやお土産といった「モノ」ではなく、道を親切に教えてもらったことや、写真を気持ちよく撮ってもらったことなど、「してもらったコト」への感動なのだそうです。

人は、もらった物そのものの以上に、そこに込められた気持ちや背景に心を動かされるのだと思います。

さて、理事長の話に戻りますが、紹介されたケーススタディに「ヨギボーが壊れてしまったとき、誰が悪かったのか。その後、どうすればいいのか」という問いがありました。子どもたちはそれぞれの立場から考え、あれこれと意見を出し合いながら真剣な表情でディスカッションをしていました。

ヨギボーは壊れてしまったら、お金をかけて修理すれば済むことかもしれません。けれど、本当に大切なのはそこではありません。

誰が、どんな思いでそのヨギボーを用意してくれたのか。

そして、そのヨギボーを心地よく使える環境を維持するために、子どもたちの知らないところで、どれだけ多くの人が関わってくれているのか。

そうした「見えない誰かの気持ち」に思いを巡らせることができる人になってほしいと、私は願っています。他者を尊重し、平等な言動がとれる7年生であってほしい。

その思いは、日々の学校生活の中でも大切にしていきたいと感じています。

ケーススタディで取り上げられた「低学年でヨギボーが壊れてしまった」という事実自体は、大変残念なことですし、今後絶対に起こってほしくないことです。けれど、そこから学べること・成長できることは、必ずあるのだと思います。

ルールが守られなかったから罰を受ける。その結果、自由がどんどん制限され、新しいルールが増えていく。それが今の世の中の、あまり望ましくない流れの一つでもあるように感じています。

私は、そのような方向には進んでほしくないと願っています。

むしろ、子どもたち自身が、周りの人を思いやり、場を大切に、SOLANらしい素敵な「風」を自分たちでつくっていくこと。その積み重ねによって、ルールは最小限であっても成り立つ、「自立し、自律した学習者」の集団へと近づいていくのだと思います。

来週から始まるスキー宿泊学習も、まさにその実践の場です。

自由を楽しみながらも、その自由を支えている周りの存在に気づける時間になってほしいと願っています。そして、その気づきを日常へと持ち帰ってくれることを楽しみにしています。

[聴くClassNewsletterはこちら](#)

# We will value "Purpose" and "Ownership" for you